

## 感染者急増に伴う宮古島市の取組について

年明け後の、宮古地区における新型コロナウイルス感染者の急増を受け、沖縄県立宮古病院は、昨日会見を開き、本日から一般外来診療の受付を中止し、新型コロナウイルス感染者用の病床の確保に取り組むという厳しい状況を発表しました。

沖縄県新型コロナウイルス感染症等対策本部の発表によりますと、宮古地区における新規感染者は、本日も、更に34人確認されております。宮古島の1月25日時点の人口10万人あたりの1週間の感染者数は、98.94人となっており緊急事態宣言が出されている東京の56.40人、沖縄県40.54人、に比較してもはるかに高い数字となり、全国一厳しい状況となっています。

宮古島市においては、市内の介護施設で職員や入居者を含む20名以上が関係するクラスターが発生したほか、市立の小中学校10校においても児童・生徒の感染者が発生し濃厚接触者の調査が行われ学級単位や学年単位での閉鎖等の対応も行われています。

このような厳しい状況を受け宮古島市では、市としての対応方針を再度検討して参りました。

この中で、宮古病院の医療体制を守るために、宿泊療養施設の拡充についても、宮古島市としての支援を検討して参りましたが、沖縄県において、宮古地区での療養施設を、現在の27部屋から80部屋に拡大し対応していく方針が確認できました。これについては、宮古島市としても看護師等の専門職の派遣で支援を検討して参ります。

また、昨日、県立宮古病院の会見の中で、宮古島市に対して、都市封鎖、ロックダウンに近い対応を求める発言がありましたが、宮古島市として早急に対応でき、出来るだけ市民の皆様の外出制限に繋がる措置として、市の公園等を含む市の施設の利用について、別紙のとおり沖縄県の緊急事態宣言期間中の2月7日まで全面使用禁止とする厳しい対応を取ることに致しました。

飲食店や宿泊関係施設、航空関係等人の移動に繋がる団体等への協力要請をしていきたいと考えています。

また、集団婦人検診や乳幼児健診等、高齢者の教室等の事業も中止または延期とします。

更に、小中学校においても、マスクを外して行う体育の授業を保健や他の教科に振り返る等の制限を行い、部活動、スポーツ少年団等の活動停止、学校施設の外部使用停止等の措置を行います。

感染症対策専門官等によると、宮古島市の感染拡大は、家庭内や親戚内の会食、会合による感染が多く、また、離島を含め宮古全域で感染者が発生し、市中感染の状況になりつつあることから、市民の行動を制限することが重要であるとしています。

市民のみなさまには、これまでの活動自粛を更に強化し、以下の取組にご協力をお願いします。

- 当面の間、生活に必要なための買い物等以外の不要不急の外出を自粛してください。
- 会合や会食を控え、人との接触をできるだけ減らしてください。
- 仕事や買い物等人と接触する場合はマスクの着用、三密を避けた行動、接触後の手指消毒等基本的な感染対策を徹底してください。
- 島外との往来を自粛してください。
- 来島を予定している島外からの旅行者や帰省も自粛をお願いします。

1月以降で101名の感染者のうち感染経路がわかっている47名に関しては家庭内感染が最も多く17名、施設関係や濃厚接触者が各9名となっておりますが、飲食や会食、カラオケ等による感染から、家庭内や職場内、さらには施設内や学校へと感染を広げていると思われます。若い方は症状が軽く、行動範囲が広いため知らず知らずに感染を拡大している恐れがあります。

何度も重ねてお願いします。今は、外出をできるだけ控えてください。

高齢者が多いことから、今後重症化する恐れ、また集団生活の場からの感染拡大が心配されます。皆さんの家族や友人の命を守るため、また一日も早く通常の医療体制や日常生活が送れるように、今市民の皆さんにできることは

できるだけ外出を自粛し、人との接触を避けることです。

帰宅後は、手洗い、うがいを徹底し、体調が悪いときは家の中でもマスクを着用しウイルスを家庭内に持ち込まない対策をとってください。

宮古島市における感染の終息は、今後の市民のみなさまの取組に係っています。危機感を持って集中的に、徹底した取組へのご協力をお願いします。